



第 25 回 ロータリー月例報告書

2022 年 8 月

1 週間の学会を New Hampshire 州で行い、ヘトヘトになりながらもたくさん友達ができ充実した時間を過ごしました。第 25 回目の月例報告書では 2022 年 8 月から 9 月までの生活状況をご紹介します。

膜処理技術に関するゴードン研究学会へ参加しました。同じ研究室からは合計で 2 名のみ参加し、北米が大半を占めつつ欧州や南米からの参加者もちらほらいました。この学会は少しユニークで、学生は基本的にポスター発表のみで先生たちが研究を自ら口頭発表します。日程は 6 日間あり小さなカレッジを貸し切って行われます。毎朝 9 時から夜の 9 時半まで発表と議論が行われとても密度の濃い学会でした。夜の部が終わると無制限にお酒の時間が設けられており、夜中まで学生と先生と交流しました。参考文献でよく見かける先生たちの講演と議論を重ね、とても刺激的な毎日でした。今回同じ研究室からは少数で参加したため、グループに縛られることなく新しい友達をたくさん作ることができました。通常の学会と異なり、研究発表会の他に自由時間や交流会が豊富に用意されていて短期間ながらすぐに仲を深めることができました。自由時間では近くの山へハイキングに行ったり、湖で泳いだりカヤックしたりして過ごしました。開催地は山の中にありアクティビティが限られていたことも功を奏したのかもしれませんが。今の季節では半袖で丁度良い気温で、緑の山々に囲まれた景色は北海道の道東を思い出しました。以前から良い評判は聞いていましたが、期待を超えた経験になり参加して本当によかったです。急いで進めた実験やポスター作成に費やした苦労は完全に報われました。特に夏休みが始まってから研究ばかりで少し嫌気が差していたので、絶好の息抜きとやる気に繋がったと思います。写真は学会に参加した学生 2 人と先生たちで、かつて博士課程学生もしくはポスドクとして今の指導教授の研究グループに在籍していたアラムナイです。キャリアの長い今の指導教授の家系図はとても幅広く、教え子たちの多くは独立し先生として分野を背負って各地で活躍しています。

この学会の前日にボストンへ行き前泊しました。その際にボストン近郊の大学や企業で働いている日本人の先輩たちと夜ご飯を食べました。ここでも留学報告書などでよく参考にしていただいていた人たちと遂に対面で会うことができとても楽しかったです。特にアメリカ理系博士課程後の進路について話を聞くことができ有意義な会になりました。卒業してすぐ企業の開発部門へ就職した人や一旦ポスドクを挟んで企業就職した人、アカデミアに残るためポスドクを続けている人、日本で博士を修得しボストンに来た人が丁度よく集まり研究やそれぞれの業務内容を詳しく話してくれました。家賃はニューヘイブズに比べて相当高いものの、総じてボストンは住み心地の良い街のようでした。次回訪れる機会があればもっと散策してみたいと思います。コロナに感染していなければ夏休みのため帰国を予定しています。いつも国際ロータリー財団様の多大なご支援を有難うございます。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

